

異化する視線

——木野神社の祭礼をめぐって——

橋 本 裕 之

-
- | | |
|----------------|-----------|
| 1.はじめに | 4.弥美神社の祭礼 |
| 2.木野および木野神社の概況 | 5.餅なし正月 |
| 3.木野神社の祭礼 | 6.おわりに |
-

論文要旨

本稿であつかわれるのは、福井県三方郡美浜町木野に鎮座する木野神社の祭礼である。今日、木野は弥美神社の氏子集落でありながら弥美神社の祭礼には参加せず、単独で木野神社の祭礼を行なっている。本稿ではこのような事例に注目しながら、弥美神社の祭礼とのかかわりに大きな注意をはらおうとしている。じっさい、ふたつの祭礼はさまざまな局面において酷似しており、何らかの深いつながりを彷彿とさせてくれるのである。

ところで、筆者はこれまでにもいくつかの論考をつうじて、弥美神社の祭礼と芸能にうかがわれる、きわめて興味深い民俗的世界観を明らかにしようとしてきた。それは異質なものとの出会いにむけられた強い関心、すなわち異文化間コミュニケーションの記憶にふちどられており、さらに弥美神社を中心としてまとめあげられる地域をつらぬいていくように思われる。

本稿もまた、そのような民俗的世界観を描き出そうとする試みの延長線上に位置づけられる。木野はこの地域に対して、きわめて特異な立場を選びとっており、はからずも弥美神社の祭礼を異化していた。そこで本稿では、木野の立場が最もよくうかがわれる木野神社の祭礼をとりあげながら、残された伝承のいくつかにも注目することによって、いささか異なった角度から弥美神社の祭礼に表現される民俗的世界観を照射したい。

木野のおかれた特異な立場を弥美神社の祭礼に対する視座として位置づけるならば、やがて民俗的世界観じたいをはげしくゆるがす異なった現実がせりあがってくるとともに、そのような民俗的世界観の、また異なった現実が立ち現われてくる。木野という集落はまさしくそれじたいで、弥美神社の祭礼を「異化する視線」を内在していたのであった。